

増

五年 14
 筆順 まが 増
 オン ゾウ
 フン まりす・ふりえるりやす

成り立ち



食べ物を蒸す道具(せいろう)を積み重ねた形を表し、「積み重ねる」意味を表した「曾」と、「土」という字とを組み合わせて作った字です。

「土の上に、土をいくえにも積み重ねる」ことを表した字ですが、今では、単に、「加える」こと、「ます」と、「ふやす」こと、という意味に使われていて、土にかけないで使われています。

使い方

- ▽わたしの住んでいる町は、新しい町で、どんどん人口が増加しています。この三年間で、人口が倍増しました。たいへんな激増ぶりです。
 - ▽近くの川が、雨で増水して、非常事態になりました。町の人は見張りを増員して、警戒に当たりました。
- 【熟語例】
- ▽増加(増えること。増すこと。)
 - ▽倍増(二倍にふえること。また、きつちり二倍でなくても、「大変に増える」ことを言います。)
 - ▽激増(激しく増えること。はなはだしく増えること。)
 - ▽増水(水が増えること。川などの水かさが増えること。)
 - ▽増員(人数が増えること。人数を増やすこと。)
 - ▽増産(生産を増やすこと。「好景気で、製品を増産することになった」などというふうに、つかいます。)
 - ▽増進(勢いなどが増して進むこと。「秋は食欲が増進する季節だ」などというふうに、つかいます。)
 - ▽増長(得意になって、おごり高ぶること。また、悪さの程度が増すこと。)

則

五年 9
 筆順 口目貝則
 オン ソク

成り立ち



「財産」の意味を表した「貝」と、「切り分ける」意味の「リ」とを組み合わせて作った字です。

「財産を切り分ける」という意味を表した字です。財産を分ける時には、「きまり」に従って分けましないと、きつと争いの元になります。それで、「財産を分ける」という意味の「則」で、「きまり」という意味を表したものです。

(古い字は「刪」で、「鼎」と「リ」との会意字である。国の象徴である鼎には、国の重要な掟が刻まれていたもので、鼎とリとで「掟」の意を表したものである。)

使い方

- ▽わが家には、いくつかの規則があります。たとえば夜は九時になったら寝ること、お母さんの手伝いをすること、兄弟喧嘩はしないこと、などです。時々、このうちのどれかの規則を破りますが、そうすると大変叱られます。
 - ▽ぼくたちの仲間では、色々なゲームをします。規則を決めてのですが、必ず反則する者が出ます。反則する者が多いと、ゲームが減茶苦茶になってしまつて、つまりません。規則は守らないといけないものです。
- 【熟語例】
- ▽規則(きまり。それを守って、色々なことが行われるようにした基準)
 - ▽反則(規則に違反すること。規則を破ること。)
 - ▽原則(もとになるきまり。大部分の場合に当てはまる、基本的な規則。「原則としては、日曜日は休みですが、たまには、日曜日にも行うことがあります」などというふうに、つかいます。)
 - ▽変則(規則にはずれていて、変わっていること。「変則的なフォーム」などというふうに、つかいます。)